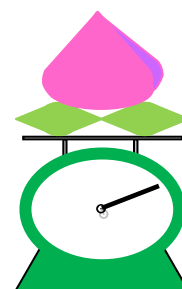


計量だより山梨



平成 30 年 10 月 12 日 第 9 号 発行：季刊

(一社) 山梨県計量協会

〒406-0035 笛吹市石和町広瀬 785 東八代合同庁舎 山梨県計量検定所内

TEL. 055-225-5046 FAX. 055-261-9132

E-mail: yamanashik@bz04.plala.or.jp

特定計量器定期検査

●集合検査：後期（秋期：北杜市、甲斐市双葉、上野原市秋山、富士河口湖町、市川三郷町、道志村、山中湖村、西桂町、鳴沢村）の検査を行っています。

北杜市、甲斐市双葉、上野原市秋山、道志村、山中湖村、西桂町を終えて、忍野村の検査を行なっているところです。

計量証明検査

●8月28～30日に検査を終えました。写真はフォークリフトを使用して40トンのトラックスケールの検査を行っているところです。



計量記念日街頭 PR 活動

●計量記念日は11月1日（木）ですが、前日の10月31日（水）午前7時40分から8時30分までの間、山梨県産業政策課、甲府市、山梨県計量検定所と協同で、甲府駅南口広場において、パンフレットなどの配布を通して街頭 PR 活動を行ないます。

第33回県民の日記念行事

●11月10日（土）～11日（日）、山梨県計量検定所と協同で小瀬スポーツ公園に出展します。例年、行列ができるほどの盛況が見られます、あめの重さ当てクイズなどを行ないますので、是非ご来場ください。

閑話休題「弥生人が計ったのは何？」

●度量衡の語句は耳にしたことはあるとしても、権衡はあまり聞いたことがないかもしれません。権衡の権は秤の錘（おもり）、衡はその棹のこととされています。この用語に従えば、権衡とは棹秤のこととなります。

重さを計るには天秤と棹秤があり、古代エジプトの絵画には天秤が描かれており、中国の春秋戦国時代の墓からは天秤のセットが出土しています。日本では、秤と権（おもり）がセットで出土しているのは、八世紀の集落遺跡の埼玉・宮町遺跡が最古の例と思われれます。

棹秤の棹（おそらく木製）や、天秤の秤皿の出土例は知られていませんが、権（おもり）と考えられる石権は鳥取・青谷上寺地遺跡などから、分銅と考えられる石製品（2の累乗倍となる2組11点）は大阪・亀井遺跡から発見されています。ところで、弥生時代の人々が何を計ったのかは諸説あります。

遺跡の性格や権または分銅と考えられる石製品の出土状況から、交易があった中国の銭貨（代表的なのは貨泉です）を計った、呪いや魔除けに用いたと考えられている水銀朱を計った、銅鐸や銅剣などの青銅器の原料となる銅・錫・鉛の調製用に計ったなどの説があります。佐賀・吉野ヶ里遺跡からは銅剣や銅矛など青銅器製品の鋳型や錫塊が見つかっていて青銅器工房が在ったことは間違いありませんので、青銅器原料の調製にも使われていたと考えることもできます。

弥生時代といえば稲作が始まっていますので、現代的感覚からすれば米を計ったことも考えられますが、後代（奈良・平安時代）の例からも米を計ったことはないようです。